

勉学の旗 (高須中学校だより)



平成 28 年 6 月 30 日号 高須中学校長 山口和久

2年生の授業を参観して

本校では、「いつでも、本校を支えてくださる方々には授業を観てもらおう」という習慣があります。観てもらおう方々は地域の方だったり、高校の先生だったり、教育委員会の方だったりします。

先日、教育委員会の指導主事の方(学校の先生方に指導助言をしてくださる方)をお招きして、2年生理科担当の古野勇人先生が授業を行い、参観しました。今まで、丸々1時間を通して授業を観ることがなかったのですが、今回のこの授業をすべて観て心に浮かんだ言葉は「先生も、生徒もすごい！」ということでした。やはり、本校の生徒は力をもっていることを確信しました。そして、その力を素直に発揮させる先生もすごいです。

授業のめあては、「二酸化炭素中では、ろうそくの火は消えるのにマグネシウムは燃えるのはなぜか、説明しよう。」というものでした。まず実験で、空気中でマグネシウムを燃やし、その後、二酸化炭素中でもマグネシウムが燃焼することを確認し、それぞれの燃えカスを比較します。最後に、それを材料に、各班で話し合っ分析・考察をし、めあてに迫ります。学生時代、理科が得意でなかった私には「こんなこと生徒にできるのだろうか」と、とても不安でしたが、生徒の皆さんは、2~4人の班で「酸化」とか「還元」とかいう言葉が飛び交い、しかも「なんで(なぜ)」「それはね」「つまり」「これって数が合わないんじゃない」などの疑問や説明、言い換えの言葉を上手く使いながら、話し合いをし、実験の結果を分析・考察し、化学式をつくっているのです。そして、班毎に小さなホワイトボードにまとめ、発表しました。

私は、昨年度までの仕事の一つに、市内の中学校の授業の様子を観てまわることがあったのですが、これだけの授業を観ることはめったにありませんでした。そして何よりうれしいのが、何回も言いますが、生徒のもっている力が素直に発揮されていたことです。それを引き出してくれた古野先生も、教員としての力を存分に発揮してくれました。参観された指導主事の方も、先生・生徒とも本当にほめていただきました。

一斉の講義型の授業で、知識を定着させていくことも大切ですが、それと同時にその知識をどう活用するのか、活用したことをどう表現するのか、そのような力が今もそして今後も確実に問われれてきます。言い換えれば、教科の評価については、生徒の皆さんが、授業中、ルールに基づいてどう活動するのかが問われますし、それだけでは評価できない部分を補うために定期考査などの結果が活用されていると考えるべきです。

これからも、生徒の皆さんの力を素直に発揮できるよう先生方には仕掛けていただきますが、一番大切なのは「**授業での活動が大事**」という生徒の皆さんの意識だろうと思います。本校の生徒は、その意識さえ定着してしまえば、必ず力を発揮できると信じています。

<理科の授業 生徒の学習プリントより>

(「ろうそくは二酸化炭素中では消えるのに、マグネシウムは二酸化炭素中でも燃える。」についての生徒の考察文章)

酸素は炭素よりもマグネシウムと結びつきやすく、二酸化炭素から逃げてマグネシウムとくっついて、酸化マグネシウムになった。また、酸素に逃げられた二酸化炭素は還元され炭素になった。なので、二酸化炭素中でも燃えた。

(山口感想: 中学時代の私には、こんな素晴らしい考察の文章は絶対に書けません。)



〔きちんとした姿勢での授業の様子〕



〔班で話し合った結果をボードで発表〕